

ヒナにトカゲやヤモリの幼体を運ぶ小笠原の  
メジロ *Zosterops japonica* とメグロ *Apalopteron familiare*

上田恵介<sup>1</sup>

小笠原諸島には陸生の爬虫類として、オガサワラトカゲ *Cryptoblepharus boutonii nigropunctatus* とアノールトカゲ *Anolis carolinensis* の2種のトカゲ類、オガサワラヤモリ *Lepidodactylus lugubris* とホオグロヤモリ *Hemidactylus frenatus* の2種のヤモリ類、それとミミズヘビ *Ramphotyphlops braminus* が分布している(松本ほか 1979, 長谷川 1985, 柴田 1989)。トカゲやヤモリの有力な捕食者としては今までのところノスリ *Buteo buteo* が報告されているが(上田・deForest 1988)、中型のスズメ目の小鳥による捕食についても、松本ら(1979)が母島においてオガサワラトカゲを捕えたイソヒヨドリ *Monticola solitarius* の例を報告しており、千葉(私信)および小林(私信)も路上でイソヒヨドリがアノールトカゲをくわえて、アスファルトにたたきつけて捕食しているのをよく観察すると述べている。著者も1990年8月1日、母島の御獄神社の下でイソヒヨドリのオス幼鳥がアノールトカゲの成体(全長約10cm, 尾が切れていた)を捕えて、小屋の屋根にたたきつけて食べようとしているのを観察している。また最近、小笠原諸島に定着したモズ *Lanius bucephalus* が食物の多くをアノールトカゲにたよっているという(千葉 私信)。

しかし、メグロ *Apalopteron familiare* やメジロ *Zosterops japonica* など、スズメ目の中でも小型の鳥が爬虫類を捕食した例はこれまで知られていない。メジロやメグロにとって、トカゲやヤモリの成体は食物として扱うには大きすぎるだろうが、生まれてすぐの幼体ならば、成鳥または成長したヒナの食物とすることは十分可能である。著者はこれまで春2回、夏1回、小笠原諸島を訪れたが、1990年の夏に母島でメジロとメグロが巣立った幼鳥の食物として、トカゲとヤモリを各1回捕獲した例を観察したので報告する。

#### 1. アノールトカゲを捕獲したメジロ

1990年7月29日(17:10) 御獄神社の境内で、メジロがアノールトカゲの幼体(全長約5cm)をくわえて何度も倒木にたたきつけているのを約2mの至近距離で観察した。このメジロは巣立ちした幼鳥を養っており、ぐったりしたトカゲをくわえて幼鳥がいる茂みへ戻っていった。

#### 2. ヤモリ(種不明)を捕獲したメグロ

1990年7月28日午前、標識調査の最中に網にかかったメグロ(成鳥)が全長約5cmのヤモリ(種不明)の幼体をくわえていた。この個体は個体識別用の足輪をつけて放鳥し、追跡した結果、巣立ちした幼鳥を養っていることがわかったので、これも幼鳥への給餌のためにヤモリを運ぶ途中だったと考えられる。小笠原では2種のヤモリのうちホオグロヤモリは人家周辺にのみみられ、個体数はあまり多くないといわれているので(松本ほか 1979)、このヤモリはオガサワラヤモリの可能性が高い。

1990年10月25日受理

1. 立教大学・一般教育・生物, 〒171 東京都豊島区西池袋3

本来、メジロもメグロも基本的には花蜜や小昆虫に依存する鳥で、トカゲやヤモリ類のような爬虫類を食物にしていることはこれまで知られていなかったし（高野ほか 1970, Morioka & Sakane 1978, 中根・松本 1979, 樋口 1985）、おそらく考えられてもいなかったであろう。今回の観察から小笠原にすむメジロとメグロが、たとえ巣立ちヒナを養う一時期とはいえ、トカゲやヤモリの幼体を捕獲していることがわかった。Hasegawa (1990) が三宅島ではアカコッコがオカダトカゲ幼体の重要な捕食者であることを報告していることなどから、島にすむ小鳥類はかなり爬虫類を捕食していると考えられる。捕獲が容易で、運搬効率のよいトカゲやヤモリの幼体は、食物要求量の高い巣立ちの時期のヒナを養っている親鳥にとって、案に手に入れられる食物として重要なのではないかと考えられる。とくに島では地上性の捕食者が少ないことから、爬虫類の密度が高い（Moyer *et al.* 1985 など）。島における小鳥類の食物としての爬虫類の重要性は再考されるべきであろう。

小笠原での調査を手伝っていただき、貴重な情報を提供して下さった千葉勇人・小林和夫氏、特別天然記念物メグロの現状変更手続きに関していろいろお世話をいただいた小笠原村教育委員会の菊地元弘氏、原稿をみていただき、爬虫類に関するいくつかのご指摘をいただいた長谷川雅美氏に厚く御礼を申し上げる。

#### 引用文献

- 千葉勇人. 1990. 小笠原諸島におけるモズの繁殖. 日鳥学誌 38: 150-151.
- 長谷川雅美. 1985. 小笠原・父島におけるトカゲ類の生態調査. 小笠原研究年報 9: 12-17.
- Hasegawa, M. 1990. The thrush *Turdus celaenops*, as an avian predator of juvenile *Eumeces okadae* on Miyake-jima, Izu Islands. Jpn. J. Herpetol. 13: 65-69.
- 樋口広芳. 1985. メグロの生態及び保護に関する調査報告書, pp. 1-39. 東京都労働経済局, 東京都
- 松本行史・松本忠夫・宮下和喜. 1979. 小笠原諸島父島・母島の爬虫類・両生類の生息状況. 小笠原諸島自然環境現況調査報告書 (1): 65-75.
- Morioka, H. & Sakane, T. 1978. Observations on the ecology and behavior of *Apalopteron familiare* (Aves, Meliphagidae), Mem. Natn. Sci. Mus. 11: 169-190.
- Moyer, J. T., Higuchi, H., Matuda, K. & Hasegawa, M. 1985. Threat to unique terrestrial and marine environments and biota in a Japanese national park. Environmental Conservation 12: 293-301.
- 中根正敏・松本忠夫. 1979. 小笠原母島の鳥類の現状. 小笠原研究年報 3: 45-57.
- 中根正敏・松本忠夫・宮下和喜. 1980. 小笠原父島・母島における鳥類の生息状況. 小笠原諸島自然環境現況調査報告書 (1): 43-63. 東京都.
- 柴田保彦. 1989. 日本の両生類と爬虫類. 大阪市立自然史博物館, 大阪.
- 高野伸二・内田康夫・柳沢紀夫・杉山互夫. 1970. 小笠原諸島の鳥類. 小笠原の自然, 小笠原諸島の学術・天然記念物調査報告書, pp. 61-87. 文部省・文化庁, 東京.
- 上田恵介・deForest, L. 1988. オガサワラノスリ *Buteo buteo toyoshimai* の求愛給餌期における食物および採食行動. 日鳥学誌 37: 34-36.

Reptiles as food of the Bonin Islands Honeyeater *Apalopteron familiare* and  
Japanese White-eye *Zosterops japonica* in the Bonin Islands

Keisuke Ueda<sup>1</sup>

On a visit to the Bonin Islands, I observed that a Bonin Island Honeyeater *Apalopteron familiare* and a Japanese White-eye *Zosterops japonica* caught juvenile reptiles and delivered them to their fledglings. This is the first observation of such small passerines exploiting reptiles as food.

1. Laboratory of Biology, Rikkyo University. 3 Nishiikebukuro, Toshima-ku, Tokyo